



※各園舎の周りには園舎の名前の由来となった樹木が植えられている。

「東京サレジオ学園2025施設整備プロジェクト」において、緑地計画は建築計画と比することなく重要な要素である。前回建替時の緑地計画においても、既存樹木や周囲の環境に配慮しながら建築物と一体となった景観の形成が目指されていた。

一方で竣工から30年以上経った現在、樹木の大径木化、高密度化により子どもたちの安全が脅かされており、緑地計画の再策定が必要な段階となっている。

新たな緑地計画においては、生活する人々にとって安全であること、景観や地域の文脈に配慮すること、持続的な維持管理のための配置、方法であることを重要視している。

〈緑地計画の方針〉

現況の植栽に対して、①伐採する樹木、②縮小する樹木、③剪定方法を変える樹木、④現状のまま残す樹木 を剪定する

①伐採する樹木：危険な樹木を伐採する

・転倒しやすいもの、建築に干渉するもの
→ **プラタナス、ヒマラヤスギ**

・残したい樹木の成長を遮るもの
→ **ヒマラヤスギ、クス** 他

・既に枯れているもの
→ **ウメ** 他

②縮小する樹木：育ちすぎた樹木を縮小する

・萌芽更新を行う樹木
→ 園舎横に植えられている樹種 他

・ナラ枯により枯れている樹木の剪定
→ **コナラ**

③剪定方法を変える樹木：維持管理が困難な樹木は剪定方法を見直す

・メンテナンスコストを下げるために樹木の剪定方法を変えるもの
→ **イチョウ**並木 他

④現状のまま残す樹木：重要な樹木は継承する

・ひと目を引くものや、記念に植えられているシンボル樹
→ **イチョウ、ミモザ、ツバキ**

・地域にゆかりのあるもの
→ **ヤマザクラ**

※小金井はサクラの名所である。ヤマザクラは江戸時代からこの地域で植樹されているサクラで、土地の気候にもあっており、生育が安定している。



0 10 20 50 100m